

経済学部
ゼミナール履修者
募集要項
〈2026年度〉

中京大学経済学部

内容

1.ゼミナールとは.....	2
2.履修者選抜制度の概要.....	2
3.募集ゼミナール	3
4.ゼミナール履修者選抜のスケジュール	3
5.ゼミナール履修者募集の HP とゼミナール履修選抜システム.....	4
5.1 ゼミナール履修選抜システム	4
6.エントリーの方法.....	4
6.1 説明会	4
6.2 エントリーシート	5
6.2.1 エントリーシートの内容	5
6.2.2 エントリーシートの書き方	5
6.2.3 エントリーシートの提出.....	6
6.2.4 エントリーシートの提出・確認方法について	6
7.審査.....	6
7.1 個別審査に関する連絡方法.....	6
7.2 面接について	6
8.履修ゼミナールの確定	7
9.ゼミナール非確定者について	7
10.ゼミナール紹介	7

1.ゼミナールとは

経済学部におけるゼミナールとは 2 年の秋学期から 4 年の秋学期までの 2 年半の期間に開講される少人数制の演習科目の総称のことです。授業科目には演習Ⅰ(2 年秋学期)、演習Ⅱ(3 年通年)、演習Ⅲ(4 年通年)が含まれます。履修の制約として、同一の担当教員の開講する演習科目(演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ)を順番に履修し、単位を修得する必要があるため注意してください。ゼミナールでの授業内容は教員によってさまざまです。また、ゼミナールの受講希望状況に応じて内容や選抜方法を変更するゼミナールもあります。個別のゼミナールの内容や選抜の条件をよく確認してください。

2.履修者選抜制度の概要

中京大学経済学部のゼミナールの履修者選抜の方法はマッチングメカニズムを応用しており、以下の条件で実施されます。

- A) 学生はエントリーシートに必要な事項を記入し、履修を希望するゼミナールにエントリー(履修申請)する。
- B) 学生は複数のゼミナールにエントリーでき、それらの希望順位を決定する。
- C) ゼミナールの募集人数は教育内容や方法に応じて担当教員によって設定されており、事前に公表される。
- D) ゼミナールの担当教員はエントリーした学生を事前に提示した方法と基準に従って審査し、評価順位を決定する。
- E) 履修者選抜システムが、学生が設定した希望順位と担当教員が決めた評価順位に基づいて各ゼミの履修者を確定する。
- F) 選抜はシステムが決められたルールに基づいて行うため、各学生の希望順位は担当教員に開示されない。また、各教員の評価順位も学生には開示されない。

注意事項

複数のゼミナールにエントリーする場合は、ゼミナールごとにエントリーシートを提出する必要があります。また、ゼミナールにエントリーしたとしても教員の評価や他の学生の応募状況によってゼミナールを履修できない場合があります。

ゼミにエントリーすることができる学生は、原則 2 年生となります。3 年生以上のゼミの未所属者でゼミに入りたい学生は教務センターまで個別に申し出てください。

3. 募集ゼミナール

履修者を募集していないゼミナールがあることもあります。募集状況については、本冊子の後半(8p以降)の個別のゼミナール募集要項で確認してください。また、各ゼミナールの紹介をMaNaBoの「2026年度ゼミナール履修選抜」のクラスで行っています(ゼミナールの紹介は担当教員に任されているため、紹介していないゼミナールもあります)。

4. ゼミナール履修者選抜のスケジュール

ゼミ合同説明会	4月6日(金)16時00分~18時00分
エントリーシート提出期間	~5月27日(水)17時00分
審査期間	~6月17日(水)
履修ゼミナール確定日(予定)	6月19日(金)

5.ゼミナール履修者募集情報に関するウェブサイトとゼミナール履修選抜システム

2026年度のゼミナール履修者の募集に関する情報は、MaNaBoの「2026年度ゼミナール履修選抜」のクラスで適宜案内しますので、定期的に確認をするようにしてください。また、経済学部の公式ウェブサイト(<https://econo.chukyo-u.ac.jp/>)にも一部の情報を掲出します。

5.1 ゼミナール履修選抜システム(4月上旬頃稼働予定)

ゼミナールへのエントリー及び、それらの希望順位の設定についてはゼミナール履修選抜システムを利用して行います。

上記のHP(<http://www.econo.chukyo-u.ac.jp/lecture/summary.php>)にアクセスしてください。本システムは4月上旬頃に稼働開始する予定です。なお、その際に本システムの操作方法マニュアルを、MaNaBoの「2026年度ゼミナール履修選抜」のクラス等にて公開します。

6.エントリーの方法

エントリーとは履修を希望するゼミナールに対して志望書(エントリーシート)を提出することです。複数のゼミナールにエントリーできますが、最終的に履修できるゼミナールは1つに限られます。ただし、他の学生のエントリー状況や審査結果によっては、ゼミナールを履修できないケースもありますので、選抜にベストを尽くしましょう。

過去の選抜では6つ以上のゼミナールに応募すれば、どこかのゼミナールには所属できる傾向が観察されています(ただし、6ゼミにエントリーすれば必ず大丈夫というわけではありません。過去には8ゼミにエントリーしてもどのゼミにも配属されなかった人もいます。)。個別ゼミナールの募集要項や説明会などで得た情報を活かし、ゼミナールの内容や特徴をよく理解した上で、十分な数のエントリーをするようにしてください。

先述したように、エントリーは経済学部のHPからゼミ履修選抜システムで行います。その際には、ゼミナールの履修の希望順位も合わせて設定します。

例年、締め切り間際でエントリーに失敗し、ゼミナールを履修できない学生がいます。エントリーは余裕を持って提出期限の前日までに完了しましょう。

6.1 説明会

ゼミ合同説明会を4月6日(月)16時00分~18時00分を実施しますので参加をお願いします。実施教室等の詳細はMaNaBoの「2026年度ゼミナール履修選抜」クラスでアナウンスを行います。

ゼミナールによっては個別に説明会を開く場合もありますので、ゼミナール紹介の「3.説明会・質問の対応について」をよく読んで、担当教員の指示に従ってください。また、説明会の場ではなく個別に質問等を行う場合も、各ゼミナール紹介の「3.説明会・質問の対応について」に書かれたルールを守りましょう。

6.2 エントリーシート

エントリーシートは履修を希望するゼミナールの履修者選抜に参加するために提出する書類のことです。経済学部のゼミナール履修者選抜制度では複数のゼミナールにエントリーすることが可能です。複数のゼミナールにエントリーする場合にはそれぞれのゼミナールにエントリーシートを提出します(8つのゼミナールにエントリーする場合には異なったエントリーシートをそれぞれのゼミナールに1通ずつ計8通提出します)。エントリーシートはゼミナール担当教員が審査をする際に重要な資料となるものです。慎重に内容を検討して提出してください。

6.2.1 エントリーシートの内容

エントリーシートの内容は以下のようになっています。

- **志望ゼミナール**
志望するゼミナール名を書いてください。
- **学籍番号/氏名**
- **志望動機**
そのゼミナールを志望した理由を記入してください。
- **自己PR**
自己PRを記入してください。
- **これまでに特に力を注いだ科目**
勉強面で特に力を注いだことを記入してください。
- **上記以外に力を注いでいること**
上記以外で力を注いでいることを記入してください。
- **ゼミナール指定欄**
この指定欄はゼミナールごとに書く内容が違います。志望するゼミナール紹介の「4. エントリーシートゼミナール指定欄」で指定された内容を記入してください。例年、異なる教員向けのゼミナール指定欄に同じ内容をゼミナール指定欄にコピー・ペーストしている学生が散見されます。エントリーシートの作成は慎重に実行してください。

6.2.2 エントリーシートの書き方

エントリーシートはマイクロソフト社のWORD形式の電子ファイル(ファイル形式 docx)としてゼミナール募集 HP 上で配布しています。記入する際には印刷したものに手書きをせず、直接コンピューターを利用して電子ファイルとして記入してください。なお、教員によっては、電

子ファイルの提出に加えて、別途、追加的な指示があるかもしれません。その場合には、その教員の指示に従ってください。

6.2.3 エントリーシートの提出

エントリーシートは中京大学経済学部の HP から履修者選抜システムを利用して提出してください。提出する書類は、マイクロソフト社の WORD などで、PDF 形式の電子ファイル(ファイル形式 pdf)で保存して提出してください。WORD から PDF 形式への変換時にレイアウトが崩れる場合があるので、提出前に PDF 形式に変換したファイルを確認してください。また、教務センターや教員に直接ファイルもしくは印刷したエントリーシートを提出することは認められていません。

エントリーシートの提出は 5/27(水)の 17 時 00 分までです。この締め切りを過ぎるとエントリーシートの提出を受け付けませんので気をつけてください。

6.2.4 エントリーシートの提出・確認方法について

エントリーシートは中京大学経済学部のゼミナール履修選抜システムから提出します。

エントリーシートの提出状況についても、ゼミナール履修選抜システムから確認できます。詳細についてはゼミナール履修選抜システムのマニュアルをよく読んでください。

7. 審査

ゼミナール履修者選抜システムでエントリーシートを提出すると審査期間にゼミナールの担当教員によって審査が行われます。教員によってはエントリーシートによる書類審査だけでなく、面接・筆記等の個別審査を課す場合があります。

7.1 個別審査に関する連絡方法

- (1)ゼミナールの担当教員はゼミナール履修者選抜システムの面接予約の機能を利用
- (2)ALBO もしくは電子メール(「学籍番号」@m.chukyo-u.ac.jp)にて個別に連絡
- (3)MaNaBo のメール機能で個別に連絡

個別審査を課す場合には、上記の 3 つの連絡方法が利用される可能性がありますので、審査期間中はゼミナール履修者選抜システム、ALBO・MaNaBo および電子メールを定期的に確認してください。

7.2 面接について

面接を行うゼミナールの多くは、ゼミナール履修選抜システムの機能である「面接予約」を利用します。ゼミナール履修選抜システムのマニュアルを読み必要な手続きを確認してください。

8.履修ゼミナールの確定

ゼミナールの担当教員はエントリーした学生を審査し、ゼミナール履修選抜システムに評価順位を提出します。ゼミナール履修選抜システムでは、担当教員によって公表されている募集人数、学生がエントリー時に設定した履修の希望順位、エントリーした学生に対する担当教員による評価順位をもとに各ゼミナールの履修者を確定します。以下にその具体的な手順を説明しておくので参考にしてください。

ゼミナール履修選抜システムでは、担当教員から選抜前に公表されているゼミナールの募集人数内の評価順位に入っている学生に対して履修ゼミナールを確定します。ただし、複数のゼミナールで募集人数内に入っている学生については、学生が設定した希望順位の高いゼミナールに確定されます。確定した学生は各ゼミナールの評価順位から削除され、評価順位の繰り上げが行われます。この手順を、各ゼミナールについて募集人数が満たされるか、エントリーした学生が全て確定するか、のどちらかの状態になるまで、繰り返し行います。

ゼミナールの履修確定状況については選抜期間終了(6/19(金))以降にゼミナール履修選抜システムで確認することができます。

注意事項

ゼミナールの履修確定状況については必ず履修選抜システムで確認し、教務センターや個別教員に問い合わせをしないでください。

9.ゼミナール非確定者について

ゼミナール履修選抜が終了し、履修するゼミナールが確定しなかった学生が多数の場合には2次募集を行う場合があります。履修するゼミナールが確定しなかった学生は、履修選抜期間終了後も、ALBO、メールの確認を定期的に継続するようにしてください。

10.ゼミナール紹介

以降のページでは各ゼミナールが紹介されています。履修したいゼミナールの紹介をよく読んでエントリーしてください。

中山恵子 ゼミナール (ミクロ経済学)

1. 研究内容および計画

ミクロ経済学入門・マクロ経済学入門で習得した知識を踏まえながら、経済学の全体像を把握するとともに、市場メカニズムの理解に努める。やがて社会に出た際、経済学部出身者として恥じぬよう、経済学の基礎理論を理解し、経済学がいかに身近な存在であるかを意識してほしい。

2・3年では主として経済の基礎理論を学ぶが、テキストや進め方は学年によって異なる。但し、基本的には学生と相談しつつ、ゼミの内容を決定し、就職試験対策として、学生の選んだトピックスに関するディスカッションやSPIの練習も行っている。新聞記事のまとめなどは、上級生が添削を行っている。他にも、適性テストと解説を外の方を招いて実施している。また、上場企業の人事の方や、官公庁の方(例:リクルート、愛知労働局はじめ多数)がいらして、就職に関する話をお聞きする機会が多い。

2年のゼミには、当初、上級生が来て、ゼミの進め方を中心に指導してくれるのが通例となっている。また、4年は、最終的には、2年、3年のゼミ生の前で、卒論報告はパワーポイントを用いて行い、学生からの希望により、学生の評価も加味したうえでの評価としている。

私立大学の文系のゼミでは珍しいが、長期にわたり東京の上場企業から研究費を年間100万円いただいている。お金に見合っただけの研究とその報告に向けて、机上の空論ではなく、生の経済に触れ、いろいろな体験をしてほしい。2024年度には、中京大学の1週間分のグリーン電力証書を購入し、大学HPでも紹介された。2025年度は電話リレーサービスの研究で学外でも活動した。また、寄付金により、返済義務のない奨学金の支給、ゼミ生全員に北海道、東京などへの近年、注目のDX研修への参加も実施している。過去には、上場企業のバレーボールVリーグの地域に根差した活動の企業からの委託や、豊田市との街づくりのコラボ、愛知県・名古屋市との観光イベントコラボなどを過去には実施してきた。今年度は、さらに他企業からの寄付のお申し出もいただいております、今、検討段階である。学生による自主ゼミも行われているが、こうした活動を通しての成長を財産としてほしい。

(尚、ゼミとしてボランティア活動は行っておらず、企業からの研究費、寄付金に基づいての活動である。)

2. 評価方法・基準

意欲ある明るい学生を希望する。エントリーシートを重視するため、熱意あるエントリーシートを期待している。相手を思いやれる人、何かを変えたい人に来てほしい。

中山ゼミは成績優秀者も多いが、必ずしも成績で集めているわけではなく、成績の悪い学生はよい学生を刺激として、ゼミに入ってから皆が成績をアップしている。ゼミに積極的に参加し、ゼミ生間で交流を深め、学業も他の部分とともに伸びてくれる学生を望む。公務員、民間、進学、何れを目指すにしろ、ゼミとしては、いろいろなチャンスを与えられるので、自分でチャンスをつかみとって、ステップアップにつなげてほしい。ゼミ見学会やゼミ説明会にはできるだけ参加することが望ましい。

3. 説明会・質問の対応について

皆さんの希望が多いため、個別のゼミの説明会とゼミ見学会を実施する予定である。現状では、5月7日(木)、5月14日(木)の4限にゼミ見学会、5限にゼミ説明会を実施する予定である。まだ教室が確定していないが、ゼミの教室で実施するつもりである。変更があれば、MaNaBo等で伝達するので、チェックしてほしい。関心がある人は、必ず参加してもらいたい。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

- ① あなたが中山ゼミを希望する理由(ゼミ説明会における教員、学生に対する印象等、具体的に)と、ゼミ生になったらゼミでどのような役割を果たしたいか。
- ② 将来、目指すものは何かとそれに向けての取り組み。なければ、学生生活をどう過ごしたいか。
- ③ 最近の経済記事で興味あるものは何か。理由と意見を明確に。

5. 学生へのメッセージ

意欲的にゼミに参加できる明朗な学生を希望する。原則として、ゼミにおける学習態度および出席を重視する。尚、企業人や卒業生をゼミに招き、学外の有益なセミナーの紹介や就活に向けてのアドバイスを行うなど、学生の就職活動を支援しているため、それに応えられる学生の受講を望む。4回生が就職活動状況を3回生に報告、インターンシップの体験を報告するなど学年を超えての交流も深い。また、学生の作成したゼミのホームページやメルマガ配信もあるので、上手に活用してほしい。企業との共同企画や名古屋港見学、東証一部企業主催の研究発表会参加など、年度により活動は異なるが、熱心に参加し、何かを得てほしい。

椿ゼミナール（イギリス社会経済史）

1. 研究内容および計画

近代資本主義が最初に出現するのは、ヨーロッパや北アメリカの西洋世界である。中でもイギリスは、他に先駆けて「産業革命」に成功し、19世紀半ばには「世界の工場」と呼ばれ、海外に広大な植民地をもつ帝国を築いた。その後、世界経済の覇権を失い、経済衰退に苦しんだ時期もあるが、21世紀の現在も存在感のある国の一つである。

政治制度や文芸をはじめ、住宅や都市計画、慈善やチャリティの文化などはもちろんのこと、大衆音楽やファッション、また多くのスポーツ発祥の地でもあり、イギリスが歴史上、世界に与えた影響は大きい。経済の分野では、1930年代の世界恐慌の最中、大量失業に対処する経済学の新しい理論をうちたてたケインズや、「ゆりかごから墓場まで」のスローガンで知られる、戦後福祉国家の理念を提唱したベヴァリッジは、共にイギリス人である。

従来、イギリスの近代化・工業化は、日本が見習うべきモデルであった。1960年代の日本の高度成長とともに、このような見方も次第に薄れてはきたが、まだまだイギリスをはじめ欧米の経験に学ぶべきところは多い。

★本ゼミナールでは、こうしたイギリスの工業化から今日までの歩みを、広く欧米の動向も視野に入れ、経済のみならず、政治・社会・文化・生活・余暇・思想などの観点も交えて多面的に検討する。

2年次は、西洋経済史やイギリス近現代史の文献を取り上げ、テキストに基づく学生諸君の発表と討論を中心に進める。使用テキストは、学生諸君の問題関心や希望に配慮し、決定したい。**3年次**は、テキスト輪読と並行して、学生諸君と相談の上、テーマを選択してグループ学習を実施する。候補としては、「歴史のなかの産業革命」・「戦後復興と社会改革」・「福祉国家の成立と展開」・「経済成長、経済衰退と経済政策」・「イギリスの階級文化とアイデンティティ」・「EU 離脱後のイギリス」・「1960年代の若者文化」・「イギリス社会と移民問題」などが考えられる。**4年次**は、各自の卒業論文の指導を行う。

また随時、映画、ドキュメンタリー、報道番組等の視聴覚教材の鑑賞を通じて、イギリスやヨーロッパ、アメリカの歴史や社会の実相にも触れてもらいたい。より詳細な内容については、Webシラバスの「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」もぜひ参照してほしい。

参考までに、近年の演習で取りあげた輪読文献を数点挙げておく：

- ・井野瀬久美恵編 『イギリス文化史』（昭和堂 2010）
- ・マーク・マゾワー（中田瑞穂、網谷隆介訳）『暗黒の大陸：ヨーロッパの20世紀』（未来社 2015）
- ・近藤康史 『分解するイギリス：民主主義モデルの漂流』（筑摩書房 2017）
- ・鶴岡路人、『EU 離脱：イギリスとヨーロッパの地殻変動』（筑摩書房 2020）

2. 評価方法・基準

基本的に、エントリーシートの記述内容によって判断する。

3. 説明会・質問の対応について

個別に質問のある人は、メール（tsubaki@mecl.chukyo-u.ac.jp）、または火曜日 5 限のオフィスアワーに研究室（14 号館 4 階 441 号室）で受け付ける。直接ゼミの先輩に話を聞きたいという人も遠慮なく連絡してほしい。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

履修を希望する学生は、エントリーシートの「1. 志望動機」欄の記述内容との相互関連に配慮しながら、次の①、② いずれか一つについてできる限り詳しく記してほしい。自分の言葉で書くよう心がけること。

- すでにイギリス、あるいは広く欧米になんらかの関心をもっている人は、関心をもったきっかけとその内容、勉強したいと思っていること、そして本ゼミナールへの期待・要望
- 関心をもった欧米を題材とする本、映画やドキュメンタリーの内容とそれに対するコメント、勉強したいと思っていること、そして本ゼミナールへの期待・要望

5. 学生へのメッセージ

ゼミナールを新たな交流、友人作りの場と考え、各々の学問的興味や問題関心に基づいて、あくまで個人として希望のゼミナールを選択することが大切である。次のような学生諸君の履修をとくに希望する：

- ①歴史の好きな人、②英語や欧米の文化に関心をもつ人、③日本やヨーロッパ、アメリカとの比較の観点からイギリスに注目している人、④活字を読んだり、文章を書いたりすることが好きな人、⑤自由時間を図書館で過ごすのが好きな人

私たちは、人生で重要な決断を迫られたとき、また世の中の出来事を評価する際、意識的に、あるいは無意識のうち過去の事例との比較を行っていないだろうか。このゼミナールを通じて、人々が過去に、さまざまな境遇の下でいかに生き、行動したかを理解し、今日の社会状況や日々生起する新しい事態に知的な対応をとれるようになってほしい。

近藤ゼミナール (国際経済学)

1. 研究内容および計画

本年度はアジア諸国やその他の新興国の経済事情について研究をします。私の担当する講義では、国際経済学など理論的な内容を中心に扱っており、こちらが一方向的に教えています。しかしゼミでは学生の活動が主体となるため、経済理論は使いません。講義の内容をイメージしてゼミに入ると、期待したものと違ったこととなりますので、留意してください。

はじめの1年半は共有する知識の確立のために、『そうだったのか、中国』(池上彰、集英社文庫)や『図解ASEANを読み解く』(みずほ総研、東洋経済)のような入門書から出発して、学生の希望をもとに3~4冊の本を選んで輪読します。学生は各自が担当することになった箇所の内容について、その他の文献・資料に幅広く当たって最新の情報を調べ、パワー・ポイントを使ってプレゼンテーションすることになります。情報の更新は非常に大切で、本に出ている古いデータが現在どう変化しているかを調べてこなくてはなりません。またプレゼンの能力は社会に出てすぐに必要となりますので、ゼミではそれを鍛えることも目的としています。さらに報告者に対する適切なコメントやディスカッションができるようになることも目指します。

3年生の秋学期の終わり頃にインター・ゼミがあります。3年生になったら6人程度のグループに分かれて研究テーマを決め、通常のゼミの活動と並行して共同研究をすすめ、研究内容を名古屋大学、南山大学、愛知大学等他大学の学生の前で30分程度報告します。レベルの低い報告ははっきり言って恥ですので、内容もプレゼンの仕方も質疑応答も、高いものが要求されます。

4年生になったら、各自でテーマを選び、卒業論文作成の準備に取りかかります。ゼミでの発表も卒業研究から自分でコアとなるものを選んで報告することになります。ゼミで指摘されたことを受けて、各自研究をいっそう磨き上げ、1月に卒業論文として提出してもらいます。400字詰め原稿用紙換算で50枚必要です。過去の卒業論文のテーマはさまざま、広く国際経済に関するものなら何でも認めます。学生生活最後に腰を据えて研究をするのですから、自分のやりたいテーマをじっくり探して見つけてください。

2年生の春休みにゼミ勉強合宿があります。全員参加です。ガチで勉強して、ガチで楽しみます。

2. 評価方法・基準

希望者が多数の場合は、基本的にエントリーシートの内容を見て評価をします。制約がある中でいかに自分の能力、価値ややる気をアピールできるかが、企業の就職活動でも問われますので、就職活動と同様の心構えでエントリーシートに記入してください。面接も就職活動の疑似体験という意味では有益ですが、やらない理由は、第一希望ではない人たちに本心を偽って話をしてもらうことが、その後の大学生活でお互いに良くないからです。就職面接なら全然そんな心配はいらないのですが。

3. 説明会・質問の対応について

MaNaBoのオンライン説明会を視聴してください。ゼミの学習活動についての質問や個人的な質問は、メールやオフィス・アワー(木曜日 12時20分から13時)で対応します。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

中国、韓国、アメリカ、イタリアのどこか1つの国を選んで、あなたがやりたいビジネスを計画してみてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミはできるだけ自分たちの関心にしがたって勉強する場としたいと思っています。必修科目ではないので、しっかりやろうという気持ちの強い人を待っています。

楽しくなければゼミは少人数の講義とたいして変わらないものになりますが、それには学生が自分たちでこんな楽しいゼミにしたいと動くかどうか重要です。基本的にこれまでの近藤ゼミの諸活動は、学生の発案を受け入れる形でなされてきました。楽しいことができるかどうかは、自分たち次第です。

ゼミは学生生活の後半になって新しくスタートし、2年半も続きますから、新しい友人を作る最後のチャンスでもあります。私がそうだったように一番の親友と出会えることも十分あると思います。

最後に、3人ほど義務付けられるゼミ合宿での報告者をどのように人選しているのか、ボーリング大会の景品は何かについては、ここでは書かないので先輩などから聞いてください。

阿部ゼミナール(日本経済史)

1. 研究内容および計画

経済史とは経済現象の長期的分析を進める学問です。長期的分析を歴史的分析といいかえることもできます。日本経済史は、経済面から日本社会の歴史を研究します。

このゼミでの研究テーマは「歴史資料で読み解く経済の歩みと地域社会」です。身近な地域をとりあげて、経済学の1分野としての経済史の方法について学びます。経済史の方法というと難しく聞こえるかもしれませんが、経済学を前提とした歴史的な考え方、歴史資料の読み方に触れてもらいたいと考えています。

2・3年次では、江戸時代から現代までの地域社会の変貌を物語る歴史資料を取り上げます。20世紀末からすでに言われていたように、21世紀には、グローバル化と情報化の急激な進展によって、江戸時代以来の歴史的な特質や伝統は、消滅の最終局面を向かえつつあるようです。

文書や碑文、絵図や写真等、様々な歴史資料を読み解き、地域社会の変貌過程をたどりながら、歴史的な特質や伝統の行方について、みなさんと語り合うことができたらと思っています。

また、3年次の秋学期からは、各自がテーマを決めて、ゼミ研究に取り組みます。日本各地の経済や社会を歴史的にみても、興味深い研究テーマがたくさんあるように思われます。また現在みられる地域の問題を、歴史的に分析するのも、おもしろいかもしれません。

ゼミ研究では、各自の関心に基づき、調査を繰り返してテーマを掘り下げ、最終的には4年次の秋学期末にゼミ修了論文を完成させます。

2. 評価方法・基準

エントリーシートの記載内容に基づいて決定しますが、必要に応じて面接を行う場合もあります。

3. 説明会・質問の対応について

質問には火・水・木曜の昼休み(12時半以降)に、阿部の研究室で対応します。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

出身地や居住地の歴史に関連して、関心・興味を持っている出来事、名所・名物、文化財のうちから、1事例を具体的に紹介して(写真を付けても良い)、その選択理由を述べる。

5. 学生へのメッセージ

日本経済史は経済学の他の分野とちがいで、必ずしも数学や統計の知識を必要としません。最近では、研究対象とされる歴史資料の幅も広がってきています。文献・文書・文化財をはじめ、写真・映像、さらに産業遺産や近代化遺産と呼ばれる機械・設備・工場等、日本経済史の研究材料は実に多彩です。日本各地の歴史や文化に興味を持ち、好奇心の強い人達を歓迎します。

釜田 ゼミナール (経済政策)

1. 研究内容および計画

政府は、財政、金融、貿易、環境、医療、福祉、教育、労働などのさまざまな分野において、直接的に経済活動を行ったり、民間(家計・企業)の経済活動に影響を与える間接的な活動を行っている。経済政策とは、このような政府の活動のすべてを含む。本ゼミナールでは、さまざまな分野から社会で注目されている問題を取り上げて、なぜ政策が必要とされるかということや、どのような政策をとるとどのような効果が期待されるのかということについて考えていきたい。具体的には、財政赤字、少子化対策、年金・医療・介護保険政策、教育政策、観光政策などに私は興味を持っているが、履修者が興味のある問題があれば、それも取り上げる。ゼミの進め方としては、なるべくさまざまな問題を勉強したいので、特定の教科書は使わない。テーマに応じて私が文献を用意するので、それをもとにグループ(3~4人)でワークを行い、グループ発表をしてもらう(2年秋~3年)。これにより、グループによる課題解決の方法を身につけるとともに、個人レベルでの分析能力とプレゼンテーション能力の向上を図る。また、政策(行政)の現場を知るために、市町村など自治体との連携も考えている。さらに、現実の経済データにあたってみることは、経済問題の本質をとらえる上で大変役立つので、4年次には、パソコンを用いて経済データの処理の仕方について学習する。そして、学生各自が選んだテーマについて、自分でデータを集めて分析を行い、卒業論文を作成する。

本ゼミナールでは、経済学の専門知識を蓄積するとともに、社会で活躍できるコンピテンシー(特性)を身につけることを行動目標とする。キャリア講座、業界研究シリーズ、個人面談、先輩・卒業生との交流などを通じて、キャリア教育にも力を入れていく。

本ゼミナールの行動目標は「専門科目学修と就業力養成の相乗効果を高める」である。

2. 評価方法・基準

- ・エントリーシートに基づいて、第1次選考を行います
- ・第2次選考として面接を行います(オンラインで行う予定)

◎志望度の高さ、ゼミ活動への意欲の高さを重視します

3. 説明会・質問の対応について

- ・ゼミ紹介スライドをManaboにアップするので、参考にしてください
- ・対面の説明会も実施予定です。詳細は追ってお知らせします
- ・メールや研究室訪問(メールで事前にアポをとってください)でも質問に対応します
メールアドレス: kkamada@mecl.chukyo-u.ac.jp

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

現時点における卒業後の進路希望について、なるべく詳しく書いて下さい。また、それを実現するためにやっていることやこれからやろうとしていることがあれば、それについても書いて下さい。進路希望が明確でない人も、これをきっかけに少し考えてみると良いです。

5. 学生へのメッセージ

- ・ゼミ旅行、懇親会、スポーツなどの課外活動も、ゼミ生の希望に応じて行います。旅行は毎年海外に行っています。これまで、イギリス、ドイツ、フランス、香港、台湾、韓国などに行きました。学生時代に異文化体験しておくことは視野が広がって大変良いと思っています。
- ・2年半という長い付き合いになるので、ゼミでの勉強およびゼミの仲間との交流に積極的に取り組みたい人が適しています。

小林ゼミナール (金融論)

1. 研究内容および計画

2年生は保険論の基礎を勉強します。

3年生は相談して内容を決めます。近年では日経 STOCK リーグなどバーチャル株式投資に参加することが多いですが、ほかのテーマでも構いません。

4年生は卒論の作成と発表が中心です。

2. 評価方法・基準

ゼミでの報告と発言で評価します。

3. 説明会・質問の対応について

木曜5限研究室にて質問を受け付けます。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

最近の経済ニュースを一つ取り上げ、あなたの意見を述べてください。

5. 学生へのメッセージ

意欲のある方、積極的な方の参加をお待ちしています。現在金融に興味があるかどうかはそれほど問題ではありません。

鈴木 ゼミナール (都市・交通問題の研究)

1. 研究内容および計画

本ゼミナールでは、都市・交通問題の構造の理解とその解決方法を経済学的な視点から学ぶとともに、ゼミ生同士のグループでのコミュニケーションを活かして協調的に問題解決ができる人になることを目指しています。ゼミの内容と計画は以下に示す通りですが、ゼミ生の意見も取り入れながら柔軟に変更して行きたいと思えます。

2年次には、コミュニティバスの運営という身近な交通プロジェクトを地域における交通問題への取り組みの実例として捉え、経済理論と現実問題の関係やプロジェクトマネジメントの方法論を学びます。また、2から3年次にかけては、ゼミで統一したテーマについて各自がレポートを作成し、相互評価に基づく協調学習を行います。学生間の相互評価を通じてテーマについて広く知識を修得し、各自のレポート作成能力の向上を目指します。この課題は、卒論執筆のための最初の準備とも言えます。

3年次の前半では、社会問題の理解や解決を促進するためのツールであるゲーミングシミュレーションにグループワークで取り組みます。グループで社会問題を模したゲームを制作し、ホストとして他のゼミ生に試行してもらってゲームを提供します。後半には、ゼミ生が交代で講師として興味を持った社会問題についてプレゼンを行い、グループディスカッションを通じてその解決策を議論します。グループディスカッションでは、相互評価を通じて個々の能力の向上を図ります。

4年次には、それまでの学修成果を基礎として各自で卒業論文を作成します。内容については、希望があれば、都市・交通以外の分野でも構いません。

鈴木ゼミでの正課外の活動は、伝統的にゼミ生中心の主体的な取り組みとして進めています。人任せにせず、自らが率先して計画して楽しいゼミにしてください。

2. 評価方法・基準

昨年度に引き続きエントリーシートによる書類選考のみで評価します。本ゼミには、多様な学生に参加して欲しいため、成績を評価対象としていませんが、決してバカを優遇している訳ではありません。他の志望する学生を上回るように真剣にエントリーシートを書きましょう。やる気を形にすることが大切です。また、選考をスムーズに進めるためにも、履修相談時に案内のあった経済学部の授業支援システムの顔写真の共有に協力をお願いします。その他大勢に紛れていると人間はあまり成長しません。是非、多くの人に自分の名前と顔を知ってもらいましょう。

3. 説明会・質問の対応について

ゼミナールの内容について疑問などがあれば MaNaBo のメールで送って頂いて結構です。可能な範囲で回答したいと思います。間違っても他の教員に送らないように必ず宛先を確認する癖をつけましょう。また、直接話を聞きたい人は5限や昼休みであれば対応できると思いますのでアポイントのメールを送ってくるようにしてください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

本ゼミナールの選考課題は「あなたが好きな都市を代表する景観を画像で紹介し、その景観が代表的である理由とその都市の魅力について説明しなさい。」です。なお、画像は自身で撮影したものでなくてもいいですが、転載する場合にはその出典を明記することを忘れないようにしてください。例年、都市と自治体の区別がついておらず、落ちる人がいます。例えば、東京という都市と行政区分を示す東京都には大きな違いがあります。気を付けましょう。

5. 学生へのメッセージ

何事にも主体的に取り組み、他のゼミ生と楽しくコミュニケーションができる学生を募集します。本ゼミナールでは「リアクションが主役を育てる」を合言葉に、誰もが主役になったときにそれを楽しめる雰囲気を作っています。自分の発表でなければ平気で遅刻したり、欠席したりする身勝手な学生は迷惑なので応募を控えてください。全員が仲間に対するサービス精神を持ってゼミを盛り上げましょう。スポーツ、旅行、コンパなどについてはゼミ生の企画力に期待しています。4年間は思いのほか早いです。苦勞を避けて、価値ある学生生活を送ってください。

平澤ゼミナール (公共経済学・財政政策)

1. 研究内容および計画

財政政策とは、政府が公共投資や政府消費、あるいはその財源となる税を変化させることなどを通じて、経済に働きかける政策のことです。財政政策に関わる問題としては、例えば、経済の変動に対して財政運営、財政政策がどうあるべきか、また、それがマクロ経済に与える影響について(どのような効果があるのか、意図した効果は本当に得られるのか、など)や財政の持続可能性の問題などがあります。このゼミでは、そのような財政政策に関わる問題について経済学のツールを使って考えます。

まず、2年次から3年次前半では、ゼミ生の興味に合わせて選んだ公共経済学や財政に関するテキストを使って、財政政策の問題を議論する際の土台となる考え方の基礎を学習します。ここでは、単にテキストを読んでまとめるだけではなく、例えば自分自身でデータを集めてテキストの中のグラフを再現してみたり、データを延長して(あるいは他の国や地方のデータを使って)グラフを描いてみたり、また、理論的な議論の数値例を考えてみたりしながら、テキストをより深く読み込んでいきます。本演習は、ゼミ生が割り当てられた箇所を報告する発表形式で進めていきます。報告者以外のゼミ生も、質問をする、報告の内容について議論をするなど、積極的にゼミに参加する姿勢が要求されます。続いて3年次後半には、卒業論文のテーマの決定を目指して財政政策に関わる問題について各自(あるいはグループ)で調査、検討をしてもらい、その結果を報告してもらいます。そして4年次には、各自でテーマを設定して卒業論文をまとめてもらいます。

2. 評価方法・基準

基本的にはエントリーシートの内容により評価します。ただし、必要に応じて面接を行う場合もあります。

3. 説明会・質問の対応について

質問がある場合は MaNaBo のメール機能でメールをください。研究室でも質問に対応しますが、その場合も事前に MaNaBo のメールで連絡をしてください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

次の(1)と(2)に教えてください。

(1) 1年次必修科目「マクロ経済学入門」および「ミクロ経済学入門」で学修した内容の中で、あなたが最も興味をもったものは何ですか？各科目からそれぞれ一つずつ挙げてください。そして、それらに興味をもった理由を説明してください。

(2) あなたが関心のある経済の問題を一つ挙げて、その内容を簡潔に説明してください。また、その問題に関心をもったきっかけを教えてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミに積極的に参加する人の応募を期待しています。

古川 章好 ゼミナール (地方財政論)

1. 研究内容および計画

普段我々は消費税を始めとする税金を払っている。政府は、その税金を使って公共投資等の公共サービスを提供している。財政学では、このような政府が行う経済活動に注目している。財政学で扱う分野は広大であり、例えば「政府」といってもその種類には様々なものがあり、代表的なものとして、国、都道府県、市町村がある。古川章好ゼミでは、都道府県や市町村といった地方政府による税金の取り方およびその使い道を経済学の知識を利用して考察することにより、地方政府が経済に与える影響を考えることを目的とする。

ゼミでは、まず財政学および地方財政論を理解するために必要であり、その基礎となるマクロ・ミクロ経済学の知識の習得を目指す。そのために、ゼミではマクロ・ミクロ経済学に関して学び、知識を再確認する。実際のゼミでは、関連する内容の教科書を輪読していく。つまり、各ゼミ生で教科書を解説する担当を決めた上で、担当部分に関してゼミ生が報告し、質疑応答をする予定である。3年次にはゼミ生の関心のあるテーマに関して研究活動を実施する。まずは研究活動方針について議論する。その後、決定した研究テーマに関してゼミ生で報告し、質疑応答を行う。さらに、他の大学が集まってお互いの研究内容を報告するインターゼミ等に参加して報告することも予定している。4年次にはこれまでの報告を通じて各自で関心のあるテーマを決定し、卒業論文の完成を目指す。

2. 評価方法・基準

エントリーシートの内容および成績等から総合的に判断する。

3. 説明会・質問の対応について

個別に質問がある場合は、原則として MaNaBo メールで受け付ける。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

以下の2つの質問に教えてください。

- (1) 地方自治体に関してあなたが知っている内容をできるだけ詳細に説明してください。
- (2) あなたの将来の目標と、その目標達成のために古川(章)ゼミで何がしたいのかできるだけ詳細に述べてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミは、ゼミ生が中心となって進められるものです。様々な問題に対して自分で考える能力を身につけるため、ゼミの中で積極的に発言することを求めます。そのために、ゼミ生に対しては、

- (1) 担当部分に関する内容報告
- (2) ゼミでの質疑応答
- (3) テーマ毎のレポート作成

を行うことを要求します。単位認定は、これらの内容と普段のゼミでの発言の様子等を総合的に評価して行います。

内田俊博ゼミナール（行動データサイエンス・行動経済学）

1. 研究内容および計画

内田ゼミでは、人々の行動を行動経済理論およびデータサイエンスの手法を用いて分析できるようになることを目標とします。最近、行動経済学の面白い研究例を紹介した書籍が多く出版されていますが、本ゼミではさらに一歩踏み込み、自ら分析や応用ができるようになることを目標とします。行動経済理論とともに、プログラミング言語の Python（パイソン）や関連するデータサイエンスの手法も積極的に学んでいくため、ゼミの分野を「行動データサイエンス」と名付けています。

具体的には2年次と3年次に以下のような内容を学ぶ予定です

- ・消費者行動分析やマーケティングへの行動経済学の応用
- ・Pythonによるデータサイエンス入門
- ・自然言語分析などディープラーニングの応用

また、3年次の秋学期には中部経済学インターゼミに出場します。4年次は個人またはグループで卒業研究を進めるとともに、必要に応じてより進んだ分析手法を学んでいきます。

Pythonについては初歩から教えるので経験は必要ありません。プログラミングやデータサイエンスについては各自の目標次第なので、エキスパートにならないと単位を修得できないということはありません。

2. 評価方法・基準

成績およびエントリーシートの内容で総合的に判断します。特に、本ゼミの内容を積極的に学びたい人を優先します。

3. 説明会・質問の対応について

メールでの質問を受け付けます。MaNaBoのメール機能を使ってください。オフィスアワー（木曜昼休みの時間）に研究室を訪問して質問することも可能です。また、環境経済学Ⅰを履修している人は授業後に質問することも可能です。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

次の2つの質問に答えてください。

(1) あなたの長所を300字以内で書いてください。

(2) 将来の目標と内田ゼミで学びたいこととの関係を500字以内で書いてください。

*将来の目標と内田ゼミで学びたいことが100%一致している必要はありません。現時点でのあなたの考えを説明してください。

5. 学生へのメッセージ

私の研究テーマは環境経済学と行動経済学の境界領域で、企業や人々の環境行動を行動経済学的視点から分析しています。本ゼミでは特に環境問題に絞らず、行動経済学とその分析・応用手法を広く学んでいきます。学ぶべき内容は多いですが、ゼミの内容に興味があれば楽しく勉強できると思います。

都丸ゼミナール (ミクロ経済学と経済数学)

1. 研究内容および計画

消費者や企業がどのような目的をもって行動するのかについてミクロ経済学入門で学習したはずである。しかし、残念ながら、微分や積分などの数学的な技術を使わない制約の下で講義が進められていたであろう。そこで、都丸ゼミでは、その数学的制約を解除してミクロ経済学（およびその関連分野）を学習・修得することを目指す。そのために、2年次に演習形式で数学の基本知識を身につける。次いで、3年次に中級レベルのミクロ経済学および大学院初級のミクロ経済学理論へと進む。3年次のミクロ経済学の学習については輪読方式を採用する。4年次には、理論的な卒業論文を執筆してもらう。以上の知識の過程を通じて、大学院での学習や研究に必要な程度の知識を蓄積することを目指す。なお、本ゼミの希望者に大学院を目指すこと強いているわけではない。

2. 評価方法・基準

《**必要条件**》 経済数学 II およびミクロ経済学入門を修得済みであること。

《**評価方法**》 **上記の必要条件を満たしていることを前提**として、エントリーシートの内容で評価する。

3. 説明会・質問の対応について

質問があれば、メールをするか、あるいは、研究室を訪問してほしい。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

以下の問にすべて答えよ。

問 1 ミクロ経済学入門で需要曲線と供給曲線の式を見たことがあるだろう ($p = \dots$ の形で書かれた式)。それらを数量 x について解いた式を、それぞれ、需要関数、供給関数という。そこで、それぞれを $x = D(p)$ 、 $x = S(p)$ と表記することにする。また、便宜のために、 $ED(p) = D(p) - S(p)$ を定義しておく（これを超過需要関数という）。次の問に答えよ。

問1-1 完全競争市場均衡（価格）はどのような条件を満たさないといけないか。上の超過需要関数を使って表現せよ。さらに、 $D(p) = 12 - p$ 、 $S(p) = -6 + p$ のときの完全競争市場均衡価格 p^e と取引量 x^e を求めよ。

問1-2 供給関数を $S(p, \theta)$ に変更し、超過需要関数を $ED(p, \theta) = D(p) - S(p, \theta)$ と定義し直す。ただし、 θ は企業の技術を表すものとし、 θ が大きいほど技術力が高く、より多くの生産が可能だとする。それを表現するために、 $\partial S / \partial \theta > 0$ を仮定する。また、需要の法則 ($D'(p) < 0$) および供給の法則 ($\partial S / \partial p > 0$) が成立しているとする。このとき、超過需要関数の偏導関数をすべて計算し、それらの符号を判定せよ。

問1-3 完全競争市場均衡価格を $p^e(\theta)$ と表記する。このとき、 $p^{e'}(\theta) < 0$ であることを数学的に示せ。また、取引量 $x^e(\theta)$ の導関数の符号についても検討せよ。

問 2 ミクロ経済学入門で無差別曲線という概念を学習した。特に、無差別曲線が、(1) 右下がりの曲線である、(2) 右上にある曲線であるほどより高い効用を表す、(3) どの 2 本の無差別曲線も互いに交差しない、(4) 原点に対して凸な形状である、という 4 つの性質を（基本的には）持つということ（が理論分析の上で望ましいこと）を確認したはずである。そこで、次の問題について解答してほしい。まず、好きな 2 種類の財・サービスを考える（ただし、それぞれ、複数個買う可能性があるような財にすること）。そして、あなたのそれらの財に対する好み、それらの財の数量の平面上に無差別曲線として描けるか説明せよ。ただし、その際、無差別曲線の定義について言及すること。また、結論は Yes でも No でもよいが、そうなる理由を説明せよ（あくまで、あなたの好みのお話であって、ミクロ経済学入門で学習した理屈付けそのものを聞いているのではないことに注意せよ）。その説明の際には、(1)、(2)、(4)の性質にのみ着目すればよい。たとえば、あなたのある無差別曲線が「右下がりの川のような形状（すなわち、幅があるような集合）」であるのであれば、そうなる事情を説明しつつ、(1)の「曲線」ということに反するため、無差別曲線はないと答えればよい。その場合、ミクロ経済学で効用関数にするどの仮定に反するかについても指摘するとなおよい。

5. 学生へのメッセージ

大学院を目指す人や経済理論・数学をしっかり学習したい人材を求めます。

増田 ゼミナール (統計学/データ分析)

1. 研究内容および計画

統計学とは、統計データに関する学問です。統計データは数字の集合であり、数字にアレルギーがあると勉強するのが辛く感じるかもしれませんが、数学自体は四則演算程度ができれば、なんとかなります。近頃はデータサイエンスが話題ですが、データサイエンスを理解する上で統計学は必須の要素になります。実際にデータサイエンスでは統計学だけでなく、プログラムやデータベース等の情報技術も駆使していくことになります。

さて、本ゼミでは統計学を応用してデータ分析の方法論を学んでいきます。経済学部にも所属しているので経済データを利用してデータ分析を行います。「経済学」自体を勉強するものではありません。企業・役所等に就職した後もデータサイエンティストとして役に立つ統計ツールを主として学んでいきます。

具体的には次のような内容を行います。

「データを取ってきて、それを洗浄(クレンジング)して分析を行い、さらに分析結果をプレゼンする」ことを学びます。

2年次

統計データを取得する方法と分析する方法を学びます(コンピューター実習)

教科書の輪読や統計学の授業は行わないです(必要に応じて講義を行う可能性があります)

3年次

インターゼミ(他の大学と集まって研究報告を互いに行う会)に参加します。自分たちでテーマを決めて、データを探して分析を行い、プレゼンの練習をして本番の報告に臨みます。

4年次

卒業論文を書きます。

2. 評価方法・基準

エントリーシートのゼミナール指定欄の内容がきちんと書いてあれば、1年次の成績と2年次の履修科目で評価します。具体的には1年次の「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」「経済数学Ⅰ」「経済数学Ⅱ」「データから見た経済」「統計学の基礎」の成績と「統計学」の授業を受講しているかどうかで判断します。特に「経済数学Ⅱ」「統計学の基礎」の成績を重視します。

また、「データから見た経済」や「統計学」や「統計学の基礎」等を受講していない場合には面接等を行う場合があります。

3. 説明会・質問の対応について

個別に質問がある場合には昼休みの時間に研究室に来てください。それ以外の時間でも研究室にいて仕事等が入ってなければ対応します。また、Eメール(jmasuda@mecl.chukyo-u.ac.jp)やMaNaBoのメールでも質問を受け付けます。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

あなたの関心があることをChatGPTやCopilotやGeminiのような生成AIを利用して調査してまとめてください。

- 生成AI等の利用がきちんとできているかを判断します。
- どのようなことを調査しても構いません。
- 利用したプロンプトを明示してください。
- ハルシネーションが起きていないことを確認してください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミの目標は「数字とコンピューターに強くなろう」ということです。現代社会であふれる虚偽の数字を見抜ける力を身に付けることを目指しています。このような方針を掲げているため、数字やコンピューターにアレルギーを持っている方には、本ゼミナールを希望しない方が良いかもしれません。ただ、数学はほとんど使いませんし、使う場合はフォローしますので、数学をやったことがない方でも参加可能です。また、数学的思考は必要ですので、数学が得意な方は大歓迎です。

レクリエーションは学生主体で企画立案を行い、法律を守っている限り自由に遊んでもらって構いません。

齊藤由里恵 ゼミナール (財政・社会保障)

1. 研究内容および計画

本ゼミナールでは、財政、社会保障の在り方を考察するとともに、財政制度、社会保障制度は経済活動に与える影響が大きいことから、財政や社会保障のみならず、社会や経済の現象を対象とし、経済学の視点から考察する力を養う。そのため、論文発表会等への参加や、問題解決のためのプロジェクト、コンテスト等の参加も予定、検討している。

また、財政や社会保障に限らず、社会や経済に関する問題解決、ディベート等も予定している。さらに、外部講師を招いての講義等、より社会への関心を深めることもおこなう。

以上を通して、**①コミュニケーション能力、②論理的思考能力、③プレゼン能力**を向上させることを目的とする。自分の意見を他人に伝える能力、ディスカッションする能力を身につけることは、だい学生生活並びに就職活動を有効・有利に進めるためにも必要となる。

【演習Ⅰ】社会や経済の現象を考察することをはじめ、スタディスキルやプレゼンテーション技術等基礎的なスキルを磨く。グループ単位での課題への取組、報告を中心に行う。

【演習Ⅱ】財政、社会保障制度をはじめとする政策課題に対して、グループ単位で論文の執筆やディベートを行う。

【演習Ⅲ】卒業論文の執筆を行う。卒業論文は、演習、大学での学修の集大成である。

2. 評価方法・基準

第1次選抜: エントリーシートの記載内容により判断する。

第2次選抜: Web面接: 2026年6月2日(火)~8日(月)で実施(予定)

*1次通過者は2026年5月29日(金)午後15時までに発表。

2026年5月31日(日)20時00分までに日程調整のメールをゼミ Email アドレスへ返信していただく。

2026年6月1日(月)13時までに面接日時決定。(メールにて連絡)

3. 説明会・質問の対応について

ゼミ見学会&説明会: 2026年4月23日(木)4限・5限(場所: 齊藤由里恵 演習Ⅱの教室)

*途中退出、途中からの参加も可能である。

また、質問等はメール、もしくは研究室への訪問も対応する。研究室への訪問の際には、メールにてアポイントを取ってくれると確実である。(yurie@mecl.chukyo-u.ac.jp)

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

本ゼミナールでは、学生へのメッセージにあるような意欲ある学生を求める。

そのため、以下3点は必ずエントリーシートへ記すこと。

1. 大学生活で成し遂げたいこととその理由

2. 本ゼミナールにおいて、上記の1がどのように関連し、位置づけられるか

3. 本ゼミナールにおいての目標と計画(どのような活動をしたいか等)、その理由、自身のゼミへの貢献

5. 学生へのメッセージ

本ゼミナールでは、自主性ととも「友人づくり=ゼミの輪」も大切にします。一生の友人と同じ経験を分かち合うことは、かけがえのない財産である。講義は2,3年生合同で行うことも多く、ゼミに割く時間は多くなる。3限+4限で実施するため、自身の講義予定を考えて、応募してほしい。

また、講義以外でも上級生ゼミとの交流、大学のイベント、他大学との交流、自主ゼミなども積極的に参画する意欲ある学生を求める。「やるべきこと・できること・面白そうな企画」等、どんどん提案する意欲ある学生を望む。また、視察、ゼミ合宿(国内)、クルーズ船内(国内+海外)での研修等も予定している。

石田ゼミナール（消費者行動分析・アンケート調査法）

1. 研究内容および計画

私たちは、日常的に様々な**意思決定**を行っています。お昼に学食で何を食べるか、夏休みにどこに旅行するか、健康のために運動をするか等々・・・経済学では、消費者が合理的であることを前提に、消費者の意思決定を分析します。また、消費者が合理的な行動をしていない場合は、心理学の理論を取り入れた行動経済学によるアプローチが行われています。消費者がどのように意思決定を行っているかや、意思決定に影響を与える認知や態度がどのように決定されるかを知ることは、企業や自治体などにとってもマーケティング戦略や政策を検討する上で、非常に重要な示唆を与えてくれます。

本ゼミナールでは、私たち消費者が生活の様々な場面において、どのように意思決定を行っているかについて、**アンケート調査**により得たデータを元に、**統計学**や**計量経済学**の手法を用いて明らかにしていきます。アンケート調査は、対象者の生の声を聞くことができる非常に強力なツールですが、調査票作成や調査方法が適切でないと、間違った情報を拾ってしまったり、データ分析に使えなかったりと、案外難しいものです。（中には結果ありきで、そこに誘導するような悪質なアンケートも見かけます。）また、調査により得られたデータも、そのまま眺めているだけでは、有益な情報をほとんど与えてくれません。アンケートデータの情報を最大限活用するためにはデータに適した分析手法を適用することが必要です。ゼミナールでは、アンケート調査の実施方法について学習し、実際に Google フォームを利用した調査を実施するとともに、そのデータの分析手法についても演習形式で学習します。

また、毎年2年生の春に1泊2日で**インタビュー調査**を兼ねた**ゼミ合宿**を実施しています(自由参加)。これまで南あわじ市役所、高山市の酒蔵、金沢市の食品コンサルタント会社を訪れ、2026年度はキューピーと調整中です。

ゼミナールの進め方は、現在のところ以下のように考えていますが、皆さんと相談しながら調整します。

2年次：消費者行動に関するテキストを読み、その内容をプレゼン

3年次：卒業研究の進め方、論文の書き方についての学習

統計ソフトを使ったデータ分析の手法（演習形式）

アンケート調査法の学習、Google フォームを利用したアンケート調査の実施

4年次：関心のあるテーマについての論文を読み、まとめた内容をプレゼン

卒業論文を執筆（アンケート調査、消費者分析、データ分析のどれかに該当していればOK）

2. 評価方法・基準

エントリーシートの内容とGPAで評価します。特に**積極性**、**学びたいことのマッチング**を重視します。

3. 説明会・質問の対応について

MaNaBoのメール機能を利用して質問してください。対面での質問も用事などが入っていないければ対応します。気軽に研究室に立ち寄ってください。ただし、事前にアポイントを取っていただいた方が確実です。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

以下の項目について全て回答してください。

1 『消費者の意思決定』をテーマに、**あなた自身のエピソード**を交えながら自由に書いてください。

2 ゼミナールで学びたいこと、やりたいこと(勉学以外も含みます)を書いてください。

3 卒業研究で取り組んでみたい内容をできるだけ具体的に書いてください。

5. 学生へのメッセージ

卒業論文では、自分で課題を見つけだし、その課題に対し様々なアプローチから自分なりの答えを導き出す**問題解決能力**や、**データに基づいた思考**や**議論**ができる能力を身につけることを目指します。こうした能力は、**就職活動**や、社会人になってからも必要です。テーマは、教員からは与えず、各自で考えていただきます。そのため、**社会的課題**や**人間の行動**、**市場の動き**、**ビジネス**などに関心のない人は苦勞するかもしれません。私たちの身近な社会で起こっていることに対して高い**関心**を持ち、**経済学的なアプローチ**からの分析することに挑戦してみたいと考えている人の応募を歓迎します。

統計学や計量経済学を用いた分析を行います。これらを**道具**として**使いこなす**ことに重点を置いているため、数学が苦手な人でも問題ありません。ただし、**データに基づいて物事を考える**ことが嫌いな人には、合わないかもしれません。

ゼミのイベント等は、皆さんの**自主性**に委ねますが、勉学以外にも、仲間と話し合いをしながら何かを成し遂げるといことは、皆さんを大きく成長させてくれるはず。実際に就職活動でも学生時代に力を入れたことが聞かれます。是非楽しい企画を考えてください。一緒に思い出を作りましょう。学ぶ時は全力で学び、遊ぶ時も全力で遊ぶ。そういった**積極性**のある人に集まってほしいと思います。

深堀ゼミナール (労働経済学)

1. 研究内容および計画

深堀ゼミでは、誰かが言ったことの受け売りではなく、自分の頭でとことん考え抜くことを通じて、社会分析力や論理的な主張の構築力養成を目指します。講義のようにすぐに答えを教えられるわけではありません。自分で答えを論証するのがゼミ活動です。この目的を達成するために、研究を実践しアウトプットする機会を2度設けます。

教員の専門は労働経済学ですので、「働く」という行為にまつわる事、あるいは現代人の人生にまつわる様々な課題について、統計データを使って実証的に分析し、自分なりの「解」を導出したい学生を募集します。教育経済学、家族の経済学、人事経済学といった近接分野もゼミの関心領域に含まれると考えてよいです。スケジュールは以下を予定。

2年生秋学期: 指定文献の輪読を中心に基礎固め

3年生: グループ研究を中心とした実践(研究成果の对外発表を目指す)⇒過去4年はISFJ日本政策学生会議で発表

4年生: 個人研究を中心とした実践(卒業論文執筆。テーマは経済学・経済に関する事柄であれば自由)

学生の関心次第ですが主に労働経済をテーマに学修や実証研究を行っていきます。教員は必要な解説・指導・サポートは行いますが、主役となるのは受講生自身です。正規の授業中には、プレゼンテーションを含む報告、ディスカッションを主に行ってもらいます。しかし報告のためには授業時間の外(夏休み含む)で個人あるいはグループで準備する必要がありますことを了解しておいてください。サブゼミも実施するかもしれません。

3年生になると、数人のグループで共同研究を行ってもらう予定です。研究成果はISFJ日本政策学生会議など外部で発表してもらうことを目標にします。ISFJに参加するならば1万5千字以上の論文執筆に加え、夏に関西もしくはオンラインで中間発表、12月に東京(2日間)で最終発表を行います。そのため懐に余裕があると良いでしょう(貯金)。

2. 評価方法・基準

エントリーシート(ES)の内容(成績含む)によって総合的に評価しますが、必要が生じれば面接も行って評価に含めます。ただし過去に面接を行ったことはありません。ESでは、記載情報そのものと論理的な文章が書けているか(論文・レポートの書き方を実践できているか)を見ます。ただし、自己PR欄は形式自由(文字以外も可)・体裁自由とします。

インターネット等からの剽窃・盗用や生成AIの回答の丸写しは絶対に認めません(特にゼミ指定欄)。研究倫理やゼミの目的に反する態度だからです。引用するのであればレポートの引用ルールに則ってください。

1年次の成績が振るっていないならば、なおのこと人並み以上にESで熱意を示して挽回してください。なお、2年生春学期に労働経済学Iを履修していなくても、減点はしません。未履修者の応募を歓迎します。

3. 説明会・質問の対応について

個別の質問には時間的・能力的に可能な限り応じますので、メールでの問い合わせをしてください。「入ってみたら予想と実際が違った」と後悔しないためには、応募前に疑問点・不安点を残さないことが大切です。ただし必要最低限のマナーは守ってください。質問をお待ちしています。メールアドレスはMaNaBoの別添資料に掲載しています。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

(1)今学期(2年生の春学期)に履修している授業の科目名を全て列挙しなさい。

(2)映画「生きる」(監督:黒澤明、製作:東宝、1952年)を鑑賞して以下の問いに答えなさい。必ず全編鑑賞すること。

①病院帰りの主人公がトラックに轢かれそうになったのは、何という会社の建物の前か。会社名を答えなさい。

②この映画のラストシーンで聞き取れる最後の台詞は、誰のどのような発言か。発言者と正確な台詞を答えなさい。

③この映画の内容(設定・台詞・建物・小道具・風景・生活文化などを含め、一瞬の断片でも構わない)と対比させて、映画から74年が経過した現在の社会を捉え直したとき、社会の改善した点、後退した点、変化していない点の3点についてあなたの見解を本音で論じなさい。ただし、あなたの意見と経済学の既修知識とを関連付けられるか否か、またどのように関連するかも含めて述べなさい(関連付けられるときは、知識を得た授業科目名も明記)。

(注)フォントサイズは任意。また、最新のリマスターであるほど改善が見られるものの部分的に台詞が聞き取りにくいので、本学図書館のDVDなど日本語字幕を表示させられる手段での視聴を推奨。問(2)の③は映画鑑賞後の自分の感想に反しないように書くこと。

5. 学生へのメッセージ

ゼミは希望者のみが参加するものです。ゼミメンバーには相応の熱意があって当然で、教員もそのつもりで指導・成績評価します。自分に合わないと思ったら無理して応募することはありません。特に、グループ論文や卒業論文を書く意欲がないならば応募は控えてください。やる気のないメンバーがいると周囲に多大な迷惑をかけます。

応募者には2年生春学期に統計学の履修を強く要望します。とはいっても未履修でも歓迎しますし、入ゼミ後はきちんとサポートもします。毎年、未履修の学生が何人も入ってきますが、今のところ何とかなっています。

ゼミの活性化という観点では、次のような人を歓迎するので、該当項目があればESで詳しくアピールしてください。

①社会について考えるのが好き、②今の経済・社会に違和感・不満・疑念がある、③知的好奇心が旺盛、④読書が好き、⑤政策論議を見るのが好き、⑥経済専門の新聞・雑誌を読む習慣あり、⑦ドキュメンタリー(TV・映画等)をよく観る、⑧人文学・芸術の何かに造詣が深い、⑨古代から1980年までのコンテンツ・文化作品・文化財の何かが好き、⑩知らない街を観察して歩くのが好き、⑪作文能力が高い、⑫字が綺麗、⑬生徒会役員の経験あり、⑭段位や入賞経験あり、⑮面倒見が良い、⑯物事をメタ的な文脈で捉える癖がある、⑰熱弁を振るう話題あり、⑱授業中の疑問を大学教員に質問した経験が周りより多い、⑲無遅刻・無欠席、⑳GPAではわからない学業面での美德が自らにあると自負する

塚本 ゼミナール (地域データ分析)

1. 研究内容および計画

本ゼミナールでは、**地域に関するデータを用いた統計分析**を行います。少子高齢化や人口減少、商業を含めた地域産業の衰退、公共交通の確保など、地域が抱える問題は山積しています。こうした問題に対して、経済学を含めた様々な知識と実際の統計データという根拠を基にしながら、論理的に解決策を示すことを目指します。こうした**統計的思考による課題解決能力は、社会に出てから一層求められる能力**です。

統計分析では**プログラミング言語「R」**や**地理情報システム「QGIS」**を使用します。プログラミングと聞くと一見難しそうですが、大部分は慣れの問題です。ある程度慣れてくるとExcelでマウスをぼちぼちしながら統計分析する方が煩わしく感じるでしょう。ただし、コンピューターは忖度してくれないので、自分がやりたいことをコンピューターで実行するためにはどうすればよいのかを自ら考え、論理や記述に抜けがないプログラムコードを書く必要があります。よってプログラミングの学習をすることは論理的な思考力（と忍耐力）の向上にもつながります。

現段階では、下記の年次計画を構想しています。ただし、受講者の希望によって変更が生じる可能性もあります。

【演習Ⅰ】（2年次）：地域経済分析システム「RESAS」や、プログラミング言語「R」を用いて統計分析を行う手法を学びます。例年、西尾市やその周辺を対象としたグループワークを行っています（2025年度は西尾市長に対してプレゼンを実施）。また、**日本統計学会公式認定「統計検定2級」の取得**を目指します。

【演習Ⅱ】（3年次）：「R」や地理情報システム「QGIS」の演習を行うのに加え、グループごとにテーマを定めて研究を行います（2025年度は、自治体と連携し、バスや市民アンケートなどの分析を実施）。

【演習Ⅲ】（4年次）：各人の興味に基づいて**卒業論文**の執筆を行います。データを用いた分析が含まれていればテーマに特段制限はありません。

※特段の理由がない限り、2年次秋学期に「計量経済学Ⅰ」、「経済特殊講義Ⅲ」、「情報リテラシー」（1年次未履修者のみ）、3年次春学期には「計量経済学Ⅱ」を履修してもらいます。

2. 評価方法・基準

基本的に、**エントリーシートの記載内容で評価**をします（ただし、必要に応じて面接を行う可能性があります）。特に、**本ゼミへの志望度合の高さ（熱意・やる気）**を重視します。評価は主に**現ゼミ生が実施**します（評価のため、エントリーシートは氏名やGPAなどを削除した上で現ゼミ生に提供します。このことに同意した上で応募してください）。

3. 説明会・質問の対応について

個別のゼミ説明会やゼミ見学会は実施しません。その代わりに、**MaNaBoで配布している資料には多数の写真を掲載し、ゼミの雰囲気**が一定程度わかるものとなっています。エントリーする前によく読んでおいてください。質問は、MaNaBoのメール機能、または電子メール（tsukamoto@mecl.chukyo-u.ac.jp）で対応します。対面での相談を希望する場合も事前にメールでアポイントを取ってください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

下記の項目の**全て**に答えてください（各回答の最初に番号を明記してください）。

- ① 「本ゼミでやりたい活動」または「本ゼミで自身はどのような行動をするつもりか」を書いてください（勉学に限る必要はない）。
- ② 2026年度春学期「統計学」を履修中かどうかを明記してください。「統計学」を履修中ではない人は、統計学を学習しようと思っていなかったのに本ゼミを志望した理由（言い訳）がもしあれば書いてください（任意）。
- ③ 選考にプラスになりそうと自身が思うことを好きなだけ書いてください。あまり書くことが思いつかない人は、自己分析をしてみるのもよいでしょう。

5. 学生へのメッセージ

勉強のモチベーション維持のためにも、「**統計データを用いて様々な疑問・問題を解決したい!**」「**自分が住んでいる地域を良くしていきたい!**」「**いろいろな地域に行くことが好き!**」というような気持ちのある方の受講が期待されます。また、データサイエンティストを目指したい方も歓迎します。ゼミ中に実施する統計分析は基本的に計算自体はPCが行うので、数学力はあるに越したことはないですが特に必須ではありません。また、プログラミングについても経験の必要はありません（プログラミング未経験者を想定してゼミは実施します）のでその点は安心してください。

ゼミの活動を充実させるイベントやアイデアがあればどんどん企画してください。勉学においてもそれ以外においても、充実した楽しいゼミを創造してもらいたいと思います。

前田 ゼミナール (金融政策)

1. 研究内容および計画

【研究内容】

金融に関する政策は多岐にわたりますが、本ゼミナールでは中央銀行が行うマクロ金融政策、つまり、1年時必修のマクロ経済入門で扱ったような貨幣供給量(マネーサプライ)を変動させて行う金融政策を扱います。金融政策は株などの金融商品の価格に影響を与えるだけでなく、我々が生活する上で重要な財の価格や雇用、国全体の生産額にも影響を与えます。どうしてそのような効果があるのかを理論的に理解、研究することをこのゼミでの目的としております。

【計画】

● 2年次

金融政策の基本的な知識を身につけるため、テキストの輪読を行います。2025年度は小林照義著『金融政策[第2版]』をテキストとしていました。また、同年度には日本銀行の店内見学に行きました。今年度も同様の学外学習を予定しています。

● 3年次

前半は、2年次よりも発展したテキストを使用し、金融についての理解を深めてもらいます。

後半は、4年次の卒業論文執筆準備のため、各自の関心に応じた学習をし、その成果を発表してもらいます。

● 4年次

3年次までに学んだ知識を基に、金融政策・マクロ経済学に関連した卒業論文を執筆してもらいます。

【受講推奨授業】

ゼミ配属後に以下の関連授業を取ることを推奨します。既に習得済みのものは履修する必要はありません。

2. 評価方法・基準

全体のGPA + 学部固有科目のGPA + エントリーシートの内容(4点満点)

3. 説明会・質問の対応について

ゼミ見学(質問会) : 4月16日木曜日 4限目 場所は別途MaNaBoに掲載します。

上記以外での質問については、以下のメールアドレスにメールをください。

メールアドレス : d-maeda@mecl.chukyo-u.ac.jp

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

1. 提出時点の日本の政策金利の水準を答えなさい。
2. 政策金利の変化がもたらす影響をマクロ経済学入門の知識を使って。

5. 学生へのメッセージ

勉強以外の活動として、2025年度は希望者を募って食事会を開きました。今後もみなさんの意見を聞きながら継続したいと考えています。

ゼミは今まで話したことのない人とも話すチャンスだと思います。専門の勉強とともに積極的にゼミ生同士でコミュニケーションも取っていきましょう。

斎藤 佑樹 ゼミナール (国際経済)

1. 研究内容および計画

グローバル化の進展により、国内の経済の結びつきは強くなっています。企業活動や貿易、投資は国境を越えて行われるようになり、一国の経済動向が他国にも大きな影響を与えるようになりました。例えば、資源価格の変動や金融市場の動き、国際的な政治情勢の変化などは、日本を含む多くの国の経済に影響を及ぼします。

こうした状況において、日本経済のみならず、海外経済の現状や各国が抱える課題について理解を深めることが非常に重要です。世界経済の動向を多角的に捉えることで、日本経済が直面している問題の背景や今後の可能性を、より広い視点から考えることができますようになります。

そこで本ゼミでは、海外経済の現状を学び、得た知識をもとに各国が抱える問題を考察し、その解決策を提示することを目標とします。ゼミでの学びを通じて、現状把握能力、問題抽出能力、そして問題に対する解決策の提示能力の向上を目指します。具体的な内容は以下の通りです（ただし、ゼミ生の希望に応じて変更する場合があります）。

○2年次：政府機関や研究機関が発行するレポートを題材に、プレゼンテーションやディスカッションを通じて海外経済の現状や課題について幅広く学びます。レポートの選定はゼミ生同士で話し合って決定します。複数の候補の中から選ぶ場合や、ゼミ生の提案を採用することもあります。

○3年次：2年次で関心を持ったテーマについてさらに調査し、報告を行います。報告内容について議論を行い理解を深めるとともに、自分の報告や他の人の報告を参考に卒業論文のテーマを決定し、卒業論文作成に必要な知識や技能を習得します。

○4年次：卒業論文の作成とその内容の発表を行います。

昨年度の実施例：JETROのレポートを題材に報告を行い、報告内容をもとにディスカッションを実施しました。ディスカッションのテーマも報告者が設定しました。

2. 評価方法・基準

基本的にはエントリーシートに基づいて評価します。頑張ってください。やる気と熱意が伝わるエントリーシートだと良いかなと思います。（たぶん面接は実施しません。）

3. 説明会・質問の対応について

MaNaBo にアップロードしてあるゼミ説明資料と合同説明会にて、ゼミの概要を簡単に説明します。質問は研究室（14号館4階414号室）またはメールにて対応します。気軽に質問にしてください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

以下の問いすべてに答えて下さい（片方の問いへの回答が極端に少なくならないようにしてください）。

問1：あなたが自由にテーマを一つ選び、その魅力が相手に伝わるように詳しく説明してください。また、あなたがそのテーマを選んだ理由についても教えてください。

問2：あなたがゼミに求めること、また期待していることを具体的に述べてください。そのうえで、勉学以外の活動（コミュニケーションやレクリエーション等の企画・運営など）も含め、ゼミをより良くするためにあなたがどのように貢献できるかも教えてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミにおいては、勉学に励むことが重要です。しかし、勉学だけでなく、学生同士のコミュニケーションやレクリエーション、懇親会の企画・運営なども大切な活動であり、そこから学べることは非常に多いと考えられます。主体的に物事に取り組み、積極的に学び行動する姿勢が求められます。また、ゼミでの活動をより充実したものにするためには、他人やゼミ全体を思いやる気持ちを持って行動することが大切です。

森本ゼミナール (マクロ経済学・経済成長論)

1. 研究内容および計画

【授業概要】

マクロ経済学は、経済全体の構造を理解しようと試みる学問です。現実の経済は複雑すぎるため、本質を抽象化し数式として表現して、数学という論理的なツールを用いて分析・考察します。これにより、明確で厳密な理解が可能になるわけです。中でも経済成長論は、時間の経過による長期的な経済の変化に関心を持ちます。本ゼミでは、マクロ経済学の一分野である経済成長論を学修し、各自の問題意識の下、卒業論文を執筆することを目標とします。

生成 AI の登場により、大学や学問を取り囲む環境は劇的に変化しました。効率的な学修が可能となった一方で、何となくの理解でもそれなりの成果が出力されるようになってしまいました。AI はアイデア次第で無限の可能性を秘めていますが、正しく付き合わなければ大学での学修機会どころか人間の思考力すら奪いかねません。そこで、本ゼミでは生成 AI の効率的な使用方法を参加者同士で議論し、学業に活用していくことで、AI との適切な付き合い方を会得することもまた目標とします。

【評価基準】

ゼミでは考えていることを他人と共有することが大事です。個々の多様な考え方を共有し議論することで、ゼミ全体の理解が深まるからです。そのため、分からないことがあれば分からないと言い、間違っていると思えば間違っていると言ってください。それが例え、正しくなかったり的外れであったりしても大丈夫です。少しくらいなら本題と関係ない無駄話を挟んでも構いません。コミュニケーションが下手であっても自分の考えを共有しようとする学生、他人の考えを理解しようとする学生を評価します。ただし、全体への貢献だけでなく、各自の能力の向上そのものも評価対象とします。

【2 年次終了時点までに修得すべき単位】

- ・マクロ経済学 (秋学期 月曜 3 限・4 限)
- ・経済数学 I (春学期 木曜 2 限)
- ・経済数学 II (秋学期 火曜 2 限)

【身に付く能力】

- ・論理的・抽象的な思考能力 (数学という論理的・抽象的なツールを用いるため)
- ・コミュニケーション・プレゼンテーション能力 (学生間で報告・議論するため)

2. 評価方法・基準

エントリーシートと成績で評価します。

3. 説明会・質問の対応について

研究室 (14 号館 3 階 344 研究室) または MaNaBo のメールにて質問を受け付けます。研究室の訪問に予約は不要ですが、不在を避けたい場合は事前にアポを取ってください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

あなたが効率的だと考える「経済学の学修のための生成 AI の利用方法」について、生成 AI に提案を出力させなさい。その内容を要約した上で、その利点と欠点をそれぞれ簡潔に述べなさい。また、どの AI (ChatGPT や Gemini など) にどのようなプロンプト (指示) を出したのかを記しなさい。

5. 学生へのメッセージ

大学での能力向上は、学問を通して得られるものだけではありません。学生同士の交流や課外活動から得られる能力も多々あります。学問に打ち込むことも重要ですが、学問に傾倒し過ぎて、対人能力や柔軟性を欠いては意味がありません。かと言って、学問そっちのけではゼミが成立しませんし、知的能力も向上しません。しっかり学んで、しっかり遊べるようなゼミになればいいなと思っています。